



神戸天然物化学株式会社

2022年3月期第1四半期 決算補足説明資料

証券コード：6568

2021年8月10日



1. 2022年3月期1Q決算実績



2022/3期1Q決算におけるポイント

1

1Qは減収減益の赤字決算。今期もスロースタート。工期の長い案件が下期に集中し、さらに業績下期偏重型へ。

2

通期業績見通しは据置き。受注は順調で、獲得可能性の高い案件を含むと1Q末時点で通期売上見通しの8割を超える。売上高は11%増の過去最高更新を想定

3

コロナ禍による原料調達遅れは緩和メドがたつも、海外からの原料調達には依然不透明感残る



1-1. 2022年3月期1Q経営成績

- 前年比8.4%減収、経常赤字計上。スロースタートながら下期偏重型の推移は当初想定通り
- 分野別には、開発ステージ好調なバイオ分野が好スタート。一方、医薬分野は前4Qで急拡大したことの反動もあり減収。下期以降に出荷予定の案件製造に注力

経営成績の推移

(百万円)	2020/3期	2021/3期		2022/3期		2022/3期 進捗率	1Q前年比較	
		1Q	通期	1Q	通期見通し		差異	変化率
売上高	6,347	1,064	6,029	975	6,700	14.6%	△88	△8.4%
機能材料分野	2,249	494	2,150	468	2,325	20.2%	△25	△5.2%
医薬分野	2,846	476	2,937	228	3,020	7.6%	△248	△52.1%
バイオ分野	1,250	93	940	278	1,355	20.6%	+185	+197.5%
営業利益	574	△8	635	△ 46	700	—	△38	—
経常利益	644	12	677	△ 45	710	—	△58	—
経常利益率	10.2%	1.2%	11.2%	△ 4.7%	10.6%	—	—	△5.9pp
当期純利益	518	3	399	△ 104	440	—	△108	—
EBITDA*	1,377	237	1,575	168	1,618	10.4%	△68	△29.0%
EBITDAマージン*	21.7%	22.3%	26.1%	17.3%	24.1%	—	—	△5.0pp

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出



1-2. 四半期別経営成績推移

- 当1Qは四半期ベースで売上10億円未達、経常赤字計上は上場以降では初。近年は下期偏重傾向が進んでおり、上期/下期の変動幅は拡大
- 1Q成績はスロースタートだが、受注は順調。獲得可能性の高い案件を含むと1Q末で既に通期売上見通しの8割超に到達

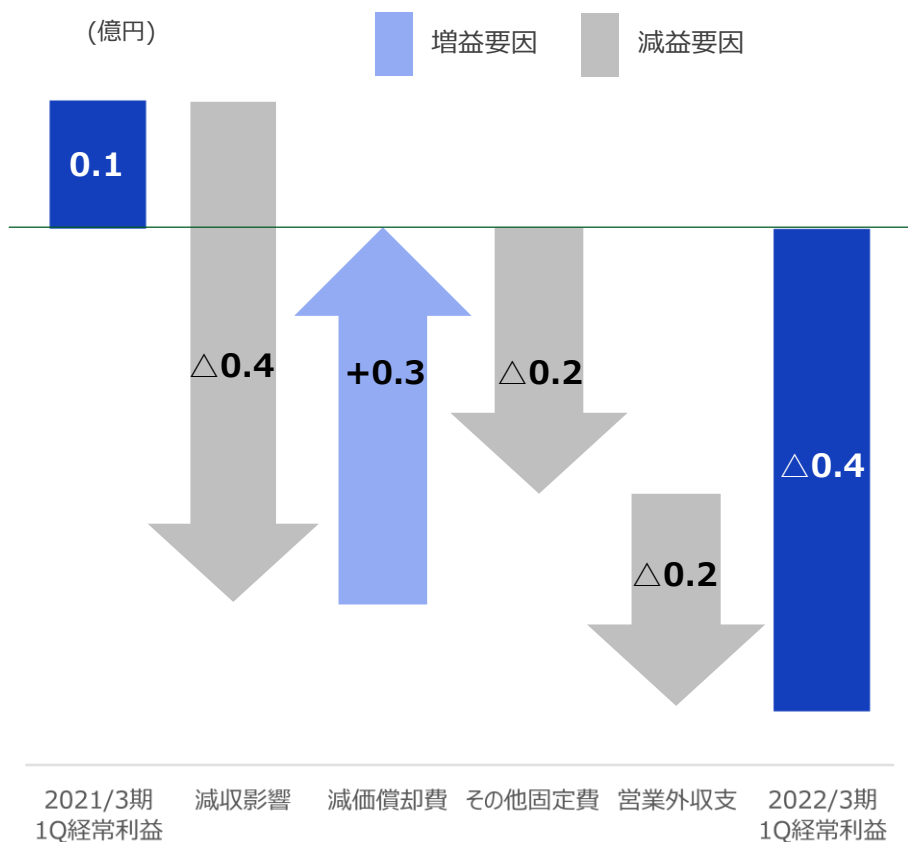
経営成績の推移（四半期推移）

	2020/3期				2021/3期				2022/3期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
売上高	1,012	1,450	1,567	2,317	1,064	1,525	1,325	2,113	975
機能材料	537	552	561	597	494	638	586	432	468
医薬	226	763	597	1,260	476	631	566	1,262	228
バイオ	249	134	408	459	93	255	173	418	278
営業利益	△20	92	260	242	△8	204	99	339	△ 46
経常利益	1	102	281	259	12	215	94	354	△ 45
経常利益率	0.2%	7.1%	18.0%	11.2%	1.2%	14.1%	7.1%	16.8%	△ 4.7%
当期純利益	△3	137	193	191	3	164	△5	237	△ 104
EBITDA*	164	279	461	472	237	428	319	590	168
EBITDA マージン*	16.2%	19.3%	29.5%	20.4%	22.3%	28.1%	24.1%	27.9%	17.3%

* EBITDA=営業利益+減価償却費で算出

- 前年比では減価償却費減少するも、減収による影響を吸収できず經常減益で赤字計上。
- 受注は順調ながら、製造期間が長く下期での販売製品が多いため、1Qの売上計上は限定的。

2022年3月期1Q經常利益の増減要因



- 減収影響 △0.4億円
 - 機能材料分野：開発ステージの販売が順調
 - 医薬分野：開発ステージ順調。
下期量産ステージ販売に向けて在庫も積み増し
 - バイオ分野：前期の原材料調達遅れ緩和
製品販売回復
開発ステージ順調に推移
- 減価償却費の減少 +0.3億円
 - 減価償却費 2.1億円
- その他固定費の増加 △0.2億円
 - 人件費増 △0.2億円
 - 研究開発費減 +0.6億円
- 営業外収支の悪化 △0.2億円
 - 助成金収入減 △0.2億円



1-4. 2022年3月期 財政状態

- 自己資本比率は78.9%。財務安全性に変化なし。前期に増加した借入金も再度圧縮へ
- 総資産は若干の減少。医薬案件の在庫増はあるものの、売掛金回収や費用支払が影響

財政状態の推移

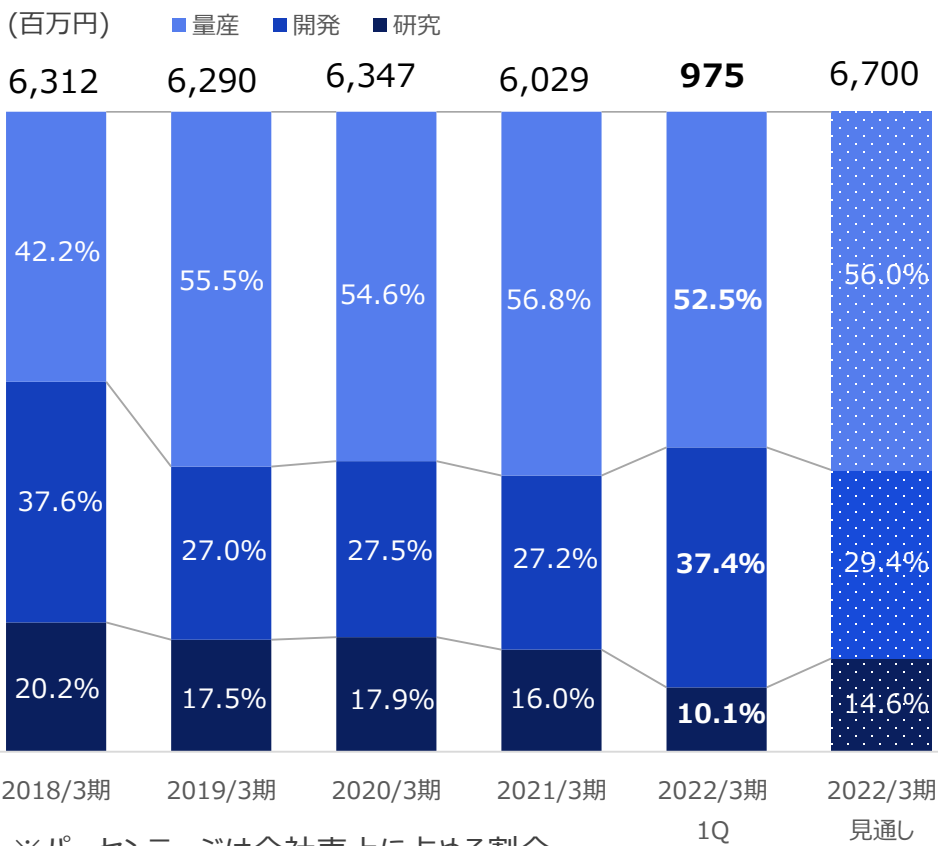
(百万円)	2020/3期	2021/3期	2022/3期 1Q	前期末差異	
流動資産	4,335	5,137	4,790	△346	未払費用、設備費用、税金支払、配当支払いなど
現預金	1,476	1,962	1,590	△372	前期末に売上増で膨らんだ売掛金の回収進む
売上債権	1,528	1,141	596	△545	医薬開発量産案件の在庫増
棚卸資産	1,285	1,742	2,495	+752	
固定資産	8,435	7,643	7,635	△7	設備投資：2.7億円 減価償却費：2.1億円
総資産	12,770	12,780	12,426	△354	
負債	2,943	2,660	2,622	△38	原材料購入により増加
仕入債務	232	255	491	+235	
有利子負債	1,428	1,443	1,353	△89	有利子負債は再び減少
純資産	9,827	10,120	9,804	△316	自己資本比率78.9%



1-5. ステージ別売上高比率

- 2022年3月期はほぼ前期と同じステージ構成を想定。1Qは開発ステージを中心に展開
- 今期も成長ドライバーとなる量産化に繋がる開発ステージ案件の獲得に注力

ステージ別売上割合推移



- 機能材料分野
 - 量産ステージ中心の展開に変更なし
 - 電子材料系の開発ステージ案件も好調
- 医薬分野
 - 1Qは開発ステージが増加
 - 主力の量産ステージは下期に販売集中の計画
- バイオ分野
 - 量産・開発ステージが売上を牽引

※パーセンテージは全社売上に占める割合

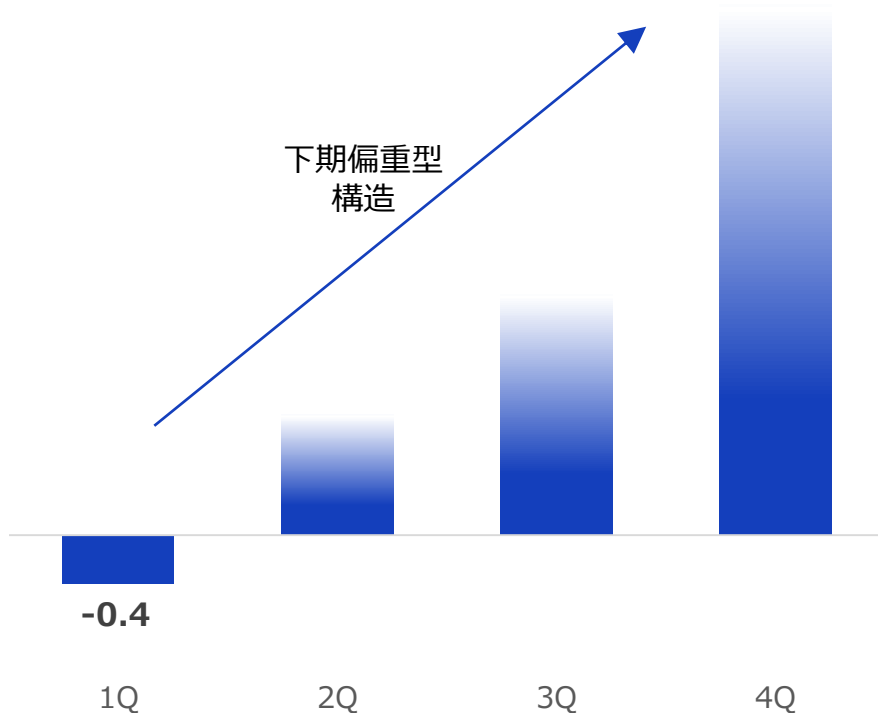


1-6. 2Q以降の展開見通し

- 通期業績見通しは据置き。売上面では過去最高を見込む。
- 1Q時点の進捗率はまだ低いが、受注の引き合いは順調。時を追って収益は改善が進むと想定
- 前期より続く原材料調達の遅れはリスクながら、徐々に緩和を想定。これらも下期以降の収益回復要因へ

2022/3期四半期別営業利益イメージ

(億円)



2Q以降に向けての展開見通し

売上面

機能材料分野：

電子材料の開発ステージ案件販売へ

医薬分野：

量産ステージの新規案件の販売開始

バイオ分野：

量産・開発ステージ順調な販売

コスト面

受注好調・原材料調達の遅れ解消/
緩和による案件増で稼働率上昇



2. Topic



- 注力中の低分子・中分子医薬品など自社主導の技術開発は着実に進捗
- 技術紹介として著名な展示会、学会に相次いで出展

展示会・学会名	期間	場所	会場	内容	形態
BioJapan 2021	10/13～15	神奈川	パシフィコ横浜	低分子医薬品 ペプチド オリゴ核酸 タンパク医薬品	出展
日本核酸医薬学会 第6回年会	6/27～29	オンライン開催	—	アミダイト オリゴ核酸	出展
CPhI Japan 2021	4/14～16	東京	東京ビッグサイト	低分子医薬品 ペプチド オリゴ核酸 タンパク医薬品	出展 企業プレゼン



< 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先
経営企画室 IR担当
078-955-9900 (代表)
knc-ir@kncweb.co.jp